

## 保健医療福祉連携教育研究センター活動報告

新潟医療福祉大学保健医療福祉連携教育研究センター  
センター長 真柄彰  
(新潟医療福祉大学医療技術学部義肢装具自立支援学科)

### 【背景・目的】

当研究センターの設置目的は以下の通りである。

1. 連携教育用仮想事例データベースの維持・発展
2. 連携教育のための人材の育成・若手教員の育成と確保
3. 連携教育用モジュールの作成 ファシリテータガイド・学生ガイドの開発
4. 連携教育用ICTシステムの開発と普及

### 【方法】

本学は現在1学年800人を越す学生数となっているが、効果的な保健医療福祉連携教育システムを開発し、連携教育の仕上げになる「連携総合ゼミ」では多くの学生に連携教育を行う必要がある。連携教育は、将来保健医療福祉関連現場や一般企業で勤務する学生にとっても大切な課程である。この教育のための場所や教員の確保、多学科の学生の時間割の確保などは、なかなか容易ではない。学生をファシリテータ教員とともに多くの臨床現場に送りだし、臨床現場で実際の患者さんや利用者を対象として学生に連携教育を行っている大学もあるが、これは容易ではない。多くの学生が連携教育に参加できることが望ましいが、全学生が「連携総合ゼミ」に参加するには、多くの教室やファシリテータ教員を確保が問題となる。また「連携基礎ゼミ」は必修科目である。英国のある大学では、対象事例とするモジュール教材の内容が変化している。当初は実際の患者を対象としていたが、次第にウェブ上に「患者が語る事例データベース」が普及しており、多くの大学がウェブ上の仮想事例や実事例をモジュール教材として使用している。この仮想事例データベースをこれまで開発してきたが、これを使用した連携教育の発展確立普及にはさらなる研究が必要である。これには各学科教員及びe-ラーニング室の協力と連携による研究体制の確立が必要である。

### 【研究成果抜粋】

(A).ATBHVI(Kobe). 2012.

1. Development and practice of interprofessional education in Japan: modules, sharing, spreading; NUHW.
2. Differences in nursing students' perceptions of their ability to perform skills important to teamwork—a comparison between a university in Japan and the UK.
3. System development for learning materials based on virtual cases with collaboration tools.
4. The Progress for IPE at NUHW -1. Basic Seminar I and II; now Basic Seminar and IPE seminar I.
5. Development and Practice of Interprofessional Education in JAPAN-1. Development and Practice of IPE by using "Module"; scenario-based virtual case in

Japan.

6. The Progress for IPE at NUHW-2. Short-term Learning Effect of IPE of Third Year Students.
7. The Progress for IPE at NUHW-3. Advantages of the Integrated Learning Seminar (IPE Seminar) for senior students.
8. The Progress for IPE at NUHW-4. Creation of the IPE courseware
9. The Progress for IPE at NUHW -5. Short-term Effects of IPE: Did the Perception, Knowledge and Attitudes of the Students Change after the Integrated Learning Seminar?
10. The Progress for IPE at NUHW-6. Integration of medical and social work fields using IPE module.
11. Consciousness change of the physiotherapy students by class participation of a school for disabilities children.

(B).保健医療福祉連携 (学会誌)

1. 連携教育(IPE)用「総合ゼミ学生ガイド」の作成と評価.
2. 映像注釈システム活用の連携教育ファシリテーションスキル向上策.
3. ICT活用の連携教育の展望と支援基盤形成のために.
4. 新潟医療福祉大学の保健医療福祉連携教育.
5. 第7回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会の開催にあたって (巻頭言).
6. 医療従事者を目指す学生への生命倫理教育-多職種連携を主眼として-.
7. 私が歩んだ保健医療福祉連携教育のみち—原点から現在まで—.
8. 新潟医療福祉大学の IPE-連携創造における事例構成の重要性-.
9. 専門職連携教育における専門知の共有方法の一考察.

(C).日本保健医療福祉連携教育学会学術集会

1. 医療従事者を目指す学生への生命倫理教育-多職種連携を主眼として- 第7回;
  2. 地域ケアにおける連携をコーディネートするキーパーソンの教育と育成.
  3. 専門職連携教育における専門知の共有方法の一考察.
- (D).その他
1. チーム医療とチームケア(第4回) リハビリテーション医療を効果的にする連携教育. クリニシャン. 2012.
  2. 専門職連携協働を可能にする教育の実践と試み チーム演習「総合ゼミ」の実施をとおして. 理学療法学; 2012.
  3. 専門職連携協働を可能にする教育の実践と試み. 日本理学療法学術大会; 2012.

### 【結論】

当初目標とした連携教育のための仮想事例データベースの作製、遠隔グループワークと遠隔ファシリテーションシステムがともにほぼ達成されたものと考えている。